

大好きな国見町を花
いっぴいの花見町に

春爛漫の今日この頃、なにかもが輝いて見える季節になりました。東日本大震災や原発事故から3年が過ぎましたが、復旧復興に向け奮闘されている町長や議員のみなさんに深く感謝します。

主婦の立場から、私が大好きな国見町をより良くするにはどうすればいいかを考えてみました。

町を活性化するには、町の特徴を活かし、人を集めることが必要だと思っています。義経まつりも町民だけでなく、県内外からお客さんが来てもらえるようなお祭



佐藤 ナミ

(第4町内会)

りになればと思います。これから道の駅や交流の場が予定されていますが、国見町をアピールする絶好の機会です。ほかの町村にはない個性あふれる商品を、町のキャラクター『くにみもたん』が宣伝すればいいと思います。

こんなにも素敵ですばらしい国見町です。町民と議会、行政が一体となって知恵を出し合い、将来に向かって夢と希望を持てる、住んでよかったと言え町にしたものです。

一つの案として、国見町を花見町と紹介できるように、阿津賀志山を花見山にし、放射能汚染で休んだ水田にはレンゲソウを、畑にはコスモスを植え、季節ごとに辺り一面に花を咲かせたら綺麗なことでしょう。まずは自宅のプランターに花を植えることから始めたいと思います。皆さんも花見町に向かってできることから始めてみませんか。

今後とも対応を注視

東電から回答書

3月5日、八島議長ほか4人が、東京電力復興本社

福島本部の林孝之副本部長から、1月14日に提出した「放射能汚染による下水汚泥の堆積に伴う損害賠償など

を求める要求書」の回答を受けました。

回答書は、町と町民に「多大な迷惑と心配をかけたこと」への謝罪があり、地域住民の声には誠意をもって丁寧に対応し、

今後とも県、町と協議していきたいとの内容でした。

町議会は、引き続き東京電力の対応を注視していきます。



東京電力からの回答書を受け取る八島議長など(役場仮庁舎)

東日本大震災から3年が過ぎました。国見町でも役場庁舎をはじめ、多くの建物に大変な被害を及ぼしました。商店街では被害に遭った建物が取り壊されたままで、空き地が目立ち、様相は一変してしまいました。そして太平洋沿岸の多くの地域では、津波に襲われ、壊滅的な状況になり、復興にはまだまだ時間がかかると思われまます。また、原発事故で避難を余儀なくされた浜通りの多くの人たちや、帰りたくとも帰れない人たちのことを思うと本当に気の毒でお見舞いを申し上げるしかありません。

さて、国見町では少しずつではありますが、除染作業も進んでおり、来年度までには一般住宅の7割程度の除染を終える計画です。役場庁舎の建設も進み、今年2月には完成予定で、この工事が完成すれば大震災も一つの区切りになるのではと思います。

(K・T)

- 議長 八島 博正
- 副議長 志村 良男
- 編集委員長 浅野 富男
- 編集副委員長 松浦 常雄
- 編集委員 東海林 一樹
- 同 佐藤 定男